

東京 IPO 特別コラム

2017年7月26日 Vol.91

奮起を促したい地方新興市場銘柄

今年の活躍株の一つに「結果にコミットする」というキャッチフレーズの CM で有名になった RIZAP グループ (2928) があります。旧社名は健康コーポレーションで札幌アンビシャス市場に 2006 年 5 月に上場し 10 年以上が経過する中で業績が急拡大。経営が停滞気味の数々の上場企業を傘下に入れては独自の宣伝力を駆使して再建させて規模を急速に拡大させたことで市場での評価も高まり、今や時価総額が 2400 億円という水準にまで至っています。諸般の事情で東証上場がかなわず、今や札幌アンビシャス市場の花形銘柄にもなっています。

札幌アンビシャス市場のほか地方には福岡 Q ボード、名古屋セントレックスといった新興市場が存在していますが、多くの投資家の関心は東証 1 部、2 部や JASDAQ、マザーズといった市場に集中しており、RIZAP グループのように継続的な関心が示されることはありません。それは流動性の問題とともに IR 不足で幅広い投資家に認知されていないことも背景になっているかと思えます。流動性の視点ではなく将来性の視点、経営者や事業内容がもっと投資家に認知されて評価される必要があると思われま

す。今年の 2 月に札幌を拠点にダイレクトマーケティングを展開するフュージョン (3977) がアンビシャス市場に IPO を果たしたのに続き、6 月には IoT インテグレーション事業を展開するエコモット (3987) が IPO に至りましたが、いずれも上場直後は関心と呼び初値も高いのですが、その後は調整の一途。公開価格に徐々に接近しつつあります。この際、RIZAP グループに続くアンビシャス銘柄に奮起を促したいと思えます。投資家の皆様も多少は関心を持って見守って頂ければ幸いです。とりわけ 6 月に IPO したばかりのエコモット (3987) は会社四季報にも情報がなく事業内容がまだ十分に認知されていない状況です。公開価格 2730 円に対して初値は 4195 円 (+53.7%) で、そこから上場後の高値 6400 円まで 5 割以上の上昇を見せましたが、時価は 3300 円前後まで調整してきました。建設業界に対して現場ロイドという管理システムを提供するなど IoT 関連の様々なシステムを大きく伸ばしていこうとしていますので一度皆さんも東京 IPO サイトからチェックして頂くと幸いです。

地方創生を実現するためにも地方に根ざした上場企業の発展は重要です。また投資家の皆さんも短期志向に留まることなく実際の中身を知って将来性を見極めながら取り組んで頂きたいと思えます。ちなみに最近では Q ボードの日創プロニティ (3440) やエムビーエス (1401・東証マザーズにも上場) が人気を高めているほか、セントレックスでもシェアリングエコノミーの将来性に賭けるガイアックス (3775) の評価が高まっています。地方発の元気企業が上場を機に一段と飛躍して日本全体が活性化していくことを心より願ってやみません。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)